

<団体紹介>

新宿日本語学校は、昭和50年（1975）に設立され、株式会社立、個人立認可校などを経て、現在は学校法人立の日本語学校です。昭和58年（1983）の中曽根内閣の留学生10万人計画以前にできた学校なので、教科書や教授法が少ない時代に自分達で教材を作らざるを得ず、教材開発は学校の成長とほぼ平行して行われてきました。中でも文法を可視化した教授法は、その後のデジタル教材開発の基本になったと考えています。IT教材への取り組みは平成7年（1995）からです。校長自らデジタルハリウッド専門学校でIT教材の基礎を学び、その後、学校として教材開発に取り組みました。その成果のひとつが漢字100というモーフィングを利用した漢字教材です。詳細は www.sng.ac.jp をご覧ください。

<IT・通信による日本語教育（教材・ツール）の概要>

1. ひらがな・カタカナ練習帳

概要 「ひらがな・カタカナ」を同時に教えるという今までにない発想で編集された練習帳です。教材に描かれた画像を指定アプリでスキャンすると、スマホやタブレットPC上に字源や書き順の動画が再生されます。

また、印刷されたドットコードをサウンド・リーダー(2)でスキャンすると、単語の音声を聞くことができます。多くの学習者が手元に持っているスマホなどの機材がそのまま教具になるところが特徴です。

課題 ネットの環境に左右されることがあります。

対象 初級学生 **内容** 単語、文法等。



2. サウンド・リーダー

概要 音声をドットコードに変換し、その変換したドットコードを印刷し、それをスキャンすることで、音声を再生する装置です。主に初級教材に使われ、シャドーイングなどに効果があります。

対象 初級学生 **内容** 単語、会話等。

3. VLJ (Visual Learning Japanese)

概要 当校の可視化した文法を評価した NTT Communications から声がかかり、協同開発した教材です。LMS (Learning Management System) とスマホ上で動くアプリがセットになっています。

LMS は教師が学生の学習進捗状況をチェックすることができ、アプリは、単語帳アプリと文法アプリに分かれていて、どこでも学習できる利便性が、学生から高い評価を得ています。現在は、NTT ラーニングシステムズより VLJ を提供しています。

課題 ネットの環境に左右されることがあります。

目的 遠隔教育。 **対象** 初～中級前半の学生 **内容** 初級～中級前半の文法の導入。

